患者向医薬品ガイド
２０２４年８月更新

カバサール錠０．２５ｍｇ
カバサール錠１．０ｍｇ

【この薬は？】

販売名	カバサール錠０．２５ｍｇ CABASER Tablets 0.25mg	カバサール錠１．０ｍｇ CABASER Tablets 1.0mg
一般名	カベルゴリン Cabergoline	
含有量 （１錠中）	０．２５ｍｇ	１．００ｍｇ

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。
したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。
医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。
ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。
さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

・この薬は、パーキンソン病治療剤、高プロラクチン血症治療剤（麦角（ばっかく）製剤）と呼ばれるグループに属する薬です。
・この薬は、脳内の神経伝達物質ドパミンの受容体に作用することによりパーキンソン病の症状である手足のふるえ、筋肉が硬くなる、動作緩慢、歩行障害などを緩和します。
・この薬は、ドパミン受容体に作用することによりプロラクチンの過剰な分泌を抑え、排卵障害、乳汁分泌、下垂体腺腫の臨床症状を改善します。
・次の病気の人に処方されます。

〈製剤共通〉

〇パーキンソン病
〇乳汁漏出症
〇高プロラクチン血性排卵障害

〇高プロラクチン血性下垂体腺腫（外科的処置を必要としない場合に限る）
〇産褥性乳汁分泌抑制

〈カバサール錠０．２５ｍｇ〉

〇生殖補助医療に伴う卵巣過剰刺激症候群の発症抑制

〔パーキンソン病に使用する場合〕

・非麦角製剤の治療が不十分または忍容性に問題がある（非麦角製剤による副作用のため治療が困難）と考えられる人に用いられます。
・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり量を減らしたりすると、病気が悪化したり、悪性症候群（高熱、汗をかく、ぼーっとする、手足のふるえ、体のこわばりなど）や薬剤離脱症候群（無感情、不安、うつ、疲労感、発汗、疼痛など）などの症状があらわれることがあります。指示どおりに飲み続けることが重要です。

〔乳汁漏出症、高プロラクチン血性排卵障害、高プロラクチン血性下垂体腺腫（外科的処置を必要としない場合に限る）に使用する場合〕

・この薬は、体調が良くなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。指示どおりに飲み続けることが重要です。

〔産褥性乳汁分泌抑制に使用する場合〕

・医師の指示どおりに飲むことが重要です。

〔生殖補助医療に伴う卵巣過剰刺激症候群の発症抑制に使用する場合〕

・多嚢胞性卵巣症候群の有無、血清抗ミュラー管ホルモン濃度、血清エストラジオール濃度、卵胞数等に基づき、生殖補助医療に伴う卵巣過剰刺激症候群（お腹が張る、吐き気、体重が増える、尿量が減る）の発症リスクが高いと判断される人に対してのみに使用されます。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

〇次の人は、この薬を使用することはできません。
・過去に麦角製剤で過敏症のあった人
・心エコー検査により、心臓弁尖肥厚、心臓弁可動制限およびこれらに伴う狭窄（きょうさく）等の心臓弁膜の病変が確認された人、または過去にこれら症状になったことのある人
・妊娠高血圧症候群の人
・産褥期高血圧の人

〇次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。
・胸膜炎、胸水、胸膜線維症、肺線維症、心膜炎、心嚢液貯留、後腹膜線維症と診断された人、または過去にこれらの症状になったことのある人
・消化性潰瘍や消化管出血のある人、または過去に消化性潰瘍や消化管出血になったことがある人
・レイノー病の人
・精神病の人、または過去に精神病になったことがある人

・低血圧症の人
・心血管に重篤な障害のある人、または過去に心血管に重篤な障害があった人
・下垂体腫瘍が大きくなり、視力障害などの著明な高プロラクチン血性下垂体腺腫の人
・肝臓に高度の障害のある人、または過去に肝臓に高度の障害があった人
・妊婦または妊娠している可能性のある人
・授乳中の人

〇この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

〔パーキンソン病、乳汁漏出症、高プロラクチン血性排卵障害、高プロラクチン血性下垂体腺腫（外科的処置を必要としない場合に限る）に使用する場合〕

〇この薬を飲み始める前に心エコー検査などにより、心臓弁膜症の有無が確認されます。

〔乳汁漏出症、高プロラクチン血性排卵障害治療に使用する場合〕

〇この薬を飲み始める前にトルコ鞍（あん）（下垂体腺腫の有無）の検査が行われます。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

使用量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。
通常、成人の飲む量および回数は次のとおりです。

〔パーキンソン病に使用する場合〕

販売名	カバサール錠０．２５ｍｇ			カバサール錠１．０ｍｇ		
一回量	初期 １錠	２週目 ２錠	最高* １２錠	初期 －	２週目 １／２錠	最高* ３錠
飲む回数	１日１回	１日１回	１日１回	－	１日１回	１日１回

通常、朝食後に飲みます。
*２週目以降、１週間毎に１日量として０．２５ｍｇ錠２錠または１．０ｍｇ錠半錠ずつ増量して維持量を決めます。

〔乳汁漏出症、高プロラクチン血性排卵障害、高プロラクチン血性下垂体腺腫（外科的処置を必要としない場合に限る）に使用する場合〕

販売名	カバサール錠０．２５ｍｇ			カバサール錠１．０ｍｇ		
一回量	初期 １錠	維持量* １～３錠	最高* ４錠	初期 －	維持量 －	最高* １錠
飲む回数	１週間 １回	１週間 １回	１週間 １回	－	－	１週間 １回

通常、同一曜日の寝る前に飲みます。
*少なくとも２週間以上の間隔で、１回量０．２５ｍｇ錠１錠ずつ増量して維持量を決めます。

〔産褥性乳汁分泌抑制に使用する場合〕

販売名	カバサール錠０．２５ｍｇ	カバサール錠１．０ｍｇ
一回量	４錠	１錠
飲む回数	胎児娩出後に１回	

通常、食後に飲みます。

〔生殖補助医療に伴う卵巣過剰刺激症候群の発症抑制に使用する場合〕

販売名	カバサール錠０．２５ｍｇ
一回量	２錠
飲む回数	最終的な卵胞成熟の誘発日または採卵日から７～8 日間 １日１回

通常、就寝前に飲みます。

●どのように飲むか？

コップ１杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して２回分を一度に飲まないでください。
気がついた時に、１回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は１回とばして、次の時間に１回分飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

誤って多く飲んだ場合、悪心（吐き気）、嘔吐（おうと）、胃部不快感、幻覚（実際には存在しないものを存在するかのように感じる）、妄想（根拠が無いのに、あり得ないことを考えてしまう、論理的な説得を受け入れようとしない）、頭重感、めまい、起立性低血圧（脱力感、めまい、ふらつき、立ちくらみ、気を失う）があらわれることがあります。いくつかの症状が同じような時期にあらわれた場合は、ただちに受診してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

〔この薬を使用される全ての方に共通〕

・前兆のない突発的睡眠（突然の耐えがたい眠気）、傾眠（刺激がないと眠ってしまう）、起立性低血圧（脱力感、めまい、ふらつき、立ちくらみ、気を失う）がみられることがありますので、自動車の運転、機械の操作、高所作業など危険を伴う作業をしないでください。
・社会的に不利な結果を招くにもかかわらずギャンブルや過剰で無計画な買い物を持続的に繰り返したり、性欲や食欲が病的に亢進するなど、衝動が抑えられない症状があらわれることがあります。患者さんや家族の方は、医師からこれらについて理解できるまで説明を受けてください。また、これらの症状があらわれた場合には医師に相談してください。
・妊娠を希望する場合には、妊娠を早期に確認するために定期的に検査を行ってください。

・妊婦または妊娠している可能性のある人は医師に相談してください。
・授乳を望む人または授乳している人は医師に相談してください。
・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

〔パーキンソン病、乳汁漏出症、高プロラクチン血性排卵障害、高プロラクチン血性下垂体腺腫（外科的処置を必要としない場合に限る）、産褥性乳汁分泌抑制に使用する場合〕
・妊娠を望まない女性の方は避妊をしてください。

〔パーキンソン病、乳汁漏出症、高プロラクチン血性排卵障害、高プロラクチン血性下垂体腺腫（外科的処置を必要としない場合に限る）に使用する場合〕
・心臓弁膜症があらわれることがあります。息苦しい、息切れ、疲れやすい、むくみ、体重が増える、動悸（どうき）などの症状があらわられた場合には、ただちに医師に連絡してください。
・この薬を飲み始めてから３～６ヵ月以内に、その後も６～１２ヵ月ごとに心エコー検査が行われます。また、定期的に聴診などの身体所見、胸部Ｘ線、ＣＴなどの検査が行われます。
・長期間服用する場合は、定期的に一般的な婦人科の検査が行われます。

〔パーキンソン病に使用する場合〕
・この薬の減量・中止が必要な場合は、徐々に減量されますので、医師の指示に従ってください。急激な減量または中止により、悪性症候群（高熱、汗をかく、ぼーっとする、手足のふるえ、体のこわばりなど）があらわれることがあります。また、この薬を含むドパミン受容体作動薬の急激な減量または中止により、薬剤離脱症候群（無感情、不安、うつ、疲労感、発汗、疼痛など）があらわれることがあります。自己判断でこの薬を急に減量または中止しないでください。また、このような症状があらわれたら医師に相談してください。

〔高プロラクチン血性下垂体腺腫（外科的処置を必要としない場合に限る）に使用する場合〕
・下垂体腫瘍が大きくなった高プロラクチン血性下垂体腺腫の人は、髄液鼻漏（ずいえきびろう）があらわれ、髄膜炎に至ることがあります。発熱、頭痛、吐き気、嘔吐などの症状があらわれた場合には、ただちに医師に連絡してください。
・視野障害のある高プロラクチン血性下垂体腺腫の人は、一旦、視野障害が改善した後、再び視野障害があらわれることがあります。異常が認められた場合には、ただちに医師に連絡してください。

〔産褥性乳汁分泌抑制に使用する場合〕
・氷あん法（氷のうなどで乳房を冷やす）などの補助的方法を併用することがあります。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

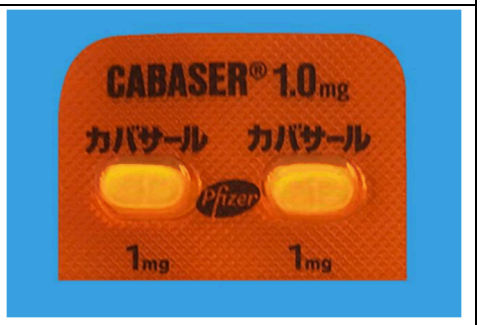
重大な副作用	主な自覚症状
幻覚 げんかく	実際には存在しないものを存在するかのように感じる
妄想 もうそう	根拠が無いのに、あり得ないことを考えてしまう、論理的な説得を受け入れようとしない
失神 しっしん	短時間、意識を失い倒れる
せん妄 せんもう	軽度の意識混濁、興奮状態、幻覚、妄想
錯乱 さくらん	注意力が散漫になる、問いかけに間違った答えをする、行動にまとまりがない
悪性症候群 あくせいしょうこうぐん	高熱、汗をかく、ぼーっとする、手足のふるえ、体のこわばり、話しづらい、よだれが出る、飲み込みにくい、脈が速くなる、呼吸数が増える、血圧が上昇する
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	咳、息切れ、息苦しい、発熱
胸膜炎 きょうまくえん	胸の痛み、発熱
胸水 きょうすい	息苦しい、息切れ、咳、胸の痛み
胸膜線維症 きょうまくせんいしょう	咳、胸の痛み、息苦しい、息切れ
肺線維症 はいせんいしょう	咳、息切れ、息苦しい、発熱
心膜炎 しんまくえん	体がだるい、発熱、息苦しい、息切れ、動悸、胸の痛み、むくみ
心嚢液貯留 しんのうえきちょりゅう	体がだるい、息苦しい、息切れ、むくみ、血圧低下
心臓弁膜症 しんぞうべんまくしょう	息苦しい、息切れ、疲れやすい、むくみ、体重が増える、動悸
後腹膜線維症 こうふくまくせんいしょう	腰痛、背中の痛み、下肢のむくみ、尿量が減る
突発的睡眠 とっぱつてきすいみん	突然の耐えがたい眠気
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる

重大な副作用	主な自覚症状
狭心症 きょうしんしょう	しめ付けられるような胸の痛み、胸を強く押さえつけられた感じ、冷汗が出る、あごの痛み、左腕の痛み
肢端紅痛症 したんこうつうしょう	手足の先の痛みや灼熱感

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	高熱、汗をかく、体のこわばり、発熱、体がだるい、むくみ、疲れやすい、体重が増える、力が入らない、体がかゆくなる、冷汗が出る、食欲不振
頭部	実際には存在しないものを存在するかのように感じる、根拠が無いのに、あり得ないことを考えてしまう、論理的な説得を受け入れようとしない、短時間、意識を失い倒れる、軽度の意識混濁、興奮状態、注意力が散漫になる、問いかけに間違った答えをする、行動にまとまりがない、ぼーっとする、突然の耐えがたい眠気
顔面	あごの痛み
眼	白目が黄色くなる
口や喉	話しづらい、よだれが出る、飲み込みにくい、咳、吐き気
胸部	呼吸数が増える、息切れ、息苦しい、胸の痛み、動悸、しめ付けられるような胸の痛み、胸を強く押さえつけられた感じ
背中	腰痛、背中の痛み
手・足	手足のふるえ、脈が速くなる、下肢のむくみ、左腕の痛み、手足の先の痛みや灼熱感
皮膚	皮膚が黄色くなる
尿	尿量が減る、尿の色が濃くなる
その他	血圧が上昇する、血圧低下

【この薬の形は？】

販売名	カバサール錠０．２５ｍｇ	カバサール錠１．０ｍｇ
ＰＴＰ シート	 表面	 表面

販売名	カバサール錠０．２５ｍｇ	カバサール錠１．０ｍｇ
	 裏面	 裏面
形状	円形の錠剤 	楕円形の錠剤（割線入り）
長径	５．５ｍｍ	７．４ｍｍ
短径	５．５ｍｍ	３．８ｍｍ
厚さ	２．８ｍｍ	２．８ｍｍ
重さ	８０ｍｇ	８０ｍｇ
色	白色	白色
識別コード	Ｃ．	７０１

【この薬に含まれているのは？】

販売名	カバサール錠０．２５ｍｇ	カバサール錠１．０ｍｇ
有効成分	カベルゴリン	
添加剤	無水乳糖、Ｌ－ロイシン	

【その他】

●この薬の保管方法は？

・直射日光と湿気を避けて、室温（１～３０℃）で保管してください。
・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

・絶対に他の人に渡してはいけません。
・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：ファイザー株式会社
(https://www.pfizer.co.jp/pfizer/)
メディカル・インフォメーション（患者さん・一般の方）
電　　話：０１２０－９６５－４８５
受付時間：月～金　９時～１７時３０分
（土日祝日および弊社休業日を除く）